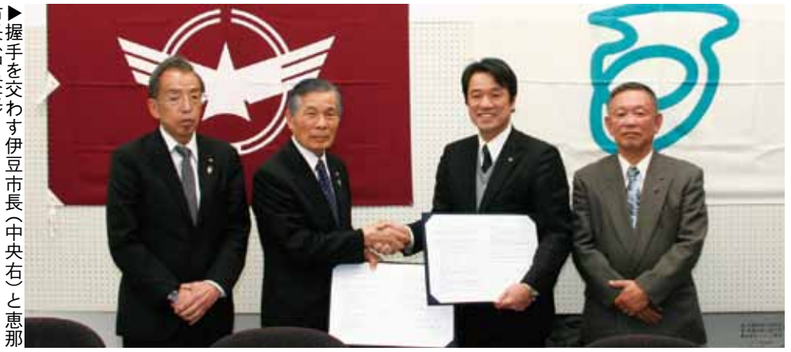
災害非常時に相互応援

4番目の協定は伊豆市と

昨年の東日本大震災を受けて、全国の自治体では、自治体同士の支援活動の重要性を再認識しました。市は、2月15日、静岡県伊豆市と災害相互応援協定を締結しました。これは、地震や豪雨などの災害で支援が必要なときに、応援し合うことを定めた協定です。当市の災害相互応援協定は、伊豆市が4番目となります。

□問い合わせ　防災情報課☎26―2111（内線317）



▶握手を交わす伊豆市長（中央右）と恵那市長（中央左）

食料や生活必需品を提供

地震や大津波で東日本の多くの自治体が被災した昨年の東日本大震災。全国の多くの自治体は、被災地への災害支援をしてきました。市でも、岩手県陸前高田市や釜石市へ職員を派遣したり、市民から提供を受けた支援物資を福島県南相馬市や二本松市などへ届けたり、3県に義援金を届けたりするなど、支援を行いました。

今回の震災では、他の自治体の支援活動の重要性の認識が高まりました。当市も東海地震や断層型直下地震などで、いつ巨大地震に襲われるか分かりません。

市では、2月15日、静岡県伊豆市と災害時相互応援協定を締結しました。これは、当市か伊豆市に地震や豪雨、洪水などの被害が生じて、支援が必要になったときに、可能な範囲で応援し合うという協定です。

主な応援内容は次の通りです。①食料など生活必需品の提供　②救助活動に必要な車両の提供　③被災者の救出などに必要な医薬品などの提供　④市の職員の派遣　⑤被災者の一時収容施設の提供　⑥災害救助ボランティアのあっせんなどです。

旧宮村町の協定が両市の縁

伊豆市との縁は、平成2年3月に、当時の静岡県修善寺町と岩村町が、さまざまな分野で交流を深め、緑とロマン豊かな里づくりを目指す「ゆかりの郷」協定を結んでいたことです。両者は、歴史的なつながりがあります。鎌倉時代、伊豆国の加藤景廉の長男の景朝が岩村城を本拠として初代遠山氏となり、遠山景朝と称しています。修善寺町は、平成16年4月に合併し、現在の伊豆市となりました。

調印式で、菊地豊伊豆市長は「恵那市との災害応援協定を大変心強く思っています。今までも年に1度交流してきましたが、それ以外でも交流を深め、お互いの気心やまちを知る機会として期待しています」とあいさつしました。また可知市長は、「東北の被災地に行って、自治体同士の支え合いが大事だと感じ、私の方から協定を申し出ました。加藤景廉公が結んでくれた縁を大事にして、お互いの発展につなげていければと思います」と話しました。

災害時相互応援協定は、昨年12月に静岡県掛川市とも締結。伊豆市とは、愛知県西尾市と福井県越前町、静岡県掛川市に次いで4市町目の締結となります。

▲両市を結び付けた加藤景廉の一族の墓

災害時の相互応援の協定

当市と協定した4市町を紹介

大規模な災害は、いつ起きるか分かりません。ここでは、当市がこれまでに災害時の相互応援協定を結んだ4市町を紹介します。非常時には、お互いに心強い存在であることが期待されます。

愛知県西尾市　平成18年8月20日協定

西尾市は、愛知県の南部に位置し、三方が丘陵地、一方が三河湾を望み、豊かな実りをもたらす矢作川が流れています。

足利義氏（あしかがよしうじ）が築城したといわれる「西条城（さいじょうじょう）」は、江戸時代には松平家の居城となり、西尾藩領は6万石の城下町としてにぎわいました。その名残は、今も大切に残されています。

昭和28年に市制を施行。自動車関連産業の発展とともに成長を続けてきました。農作物の生産にも最適で、日本有数の生産量を誇る抹茶や洋ランの栽培、また植木や観葉植物などの特産物でも「花の王国・愛知」を支えています。

人口：約17万人

◀桜が美しい歴史公園

福井県越前町　平成18年8月20日協定

越前町は、福井県の北に位置し、西は日本海に面しています。日本海に突き出た岬「越前岬」が有名です。全体的に標高が高く、沿岸部から北部にかけて500㍍級の山々が連なっています。雪が舞う越前海岸に咲く白い「スイセンの花」。この花のように、静かでゆったりとした町並みが一帯に広がっています。

夏には、海では海水浴、山ではキャンプや陶芸体験を楽しむ家族連れや、グループでにぎわいます。肌寒くなる11月上旬からは、ズワイガニの中でも有名な「越前ガニ」の季節。県内外から、大勢の人が訪れ、カニ料理を堪能します。

人口：約2万4,000人

◀高台から望む越前海岸

静岡県掛川市　平成23年12月6日協定

掛川市は、静岡県の南西部に位置し、北は南アルプス最南端の八高山（はっこうさん）と大尾山（おびさん）の峰から南は遠州灘まで、雄大な自然が広がっています。

戦国時代、戦略上の重要な拠点として、掛川城と高天神城（たかてんじん）、横須賀（よこすか）城の3つの城が建てられ、多くの武将たちがこの地を巡って戦いを繰り広げました。また江戸と京都を結んだ東海道に沿って、掛川と日坂（にっさか）の2つの宿場町が栄えました。城を中心に形成された城下町は、500年余りの歴史を持っています。

産業では、お茶やイチゴ、バラなどの特産品が数多くあります。

人口：約11万5,000人

◀市の中心部にある掛川城

静岡県伊豆市　平成24年2月15日協定

伊豆市は伊豆半島の中央部に位置し、南側は天城（あまぎ）山系の山並み、西側は青く澄んだ駿河（するが）湾、中央部は天城山に源を発する狩野（かの）川が流れ、北部は平野が開けています。

修善寺（しゅぜんじ）温泉や湯ケ島（ゆがしま）温泉など温泉が豊かで、修善寺川沿いには、伊豆（いず）最古の温泉で弘法（こうぼう）大師が開湯したと伝わる「独鈷（どっこ）の湯」があります。狩野川の上流部では、日本の滝百選の浄蓮（じょうれん）の滝が、幅7㍍高さ25㍍にわたって流れ落ちています。また鎌倉幕府の二代将軍の源頼家（みなもとのよりいえ）が幽閉された修禅寺（しゅぜんじ）や頼家の家臣墓と伝えられている「十三士（じゅうさんし）の墓」など、歴史的な観光資源もあります。

人口：約3万5,000人

◀川沿いの温泉独鈷の湯